

「コンデジで撮る天体写真(2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

「フィルム一眼レフ」「デジタル一眼レフ」と進化した天体写真だが、近年はまた状況が変わってきた。それは「コンデジ」の進化である。



「コンデジ」とは「コンパクトデジカメ」の略称で、ポケットやハンドバッグにでも入るような大きさのデジカメである。私が愛用している機種は、レンズ交換こそできないが、光学ズーム、夜景モード、マニュアルモードなどを搭載し、動画の撮影も可能だ。電源を切るとレンズが格納されるので、ポケットにも入る。



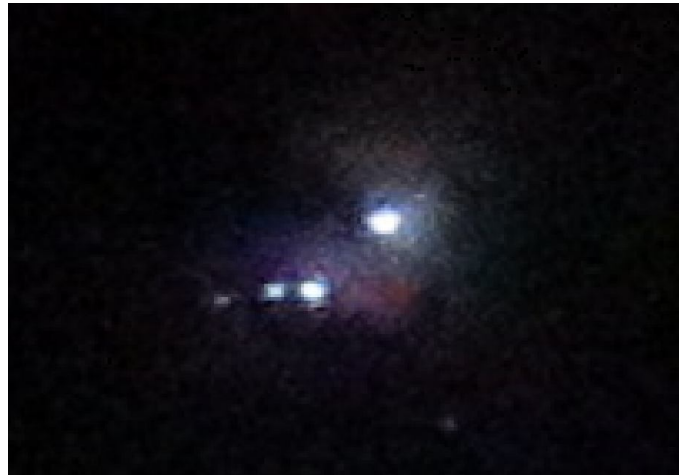
これが、このデジカメで撮った、オリオン座の写真で、「冬の三角」も写っている。デジタル一眼にはかなわないが、拡大すると恒星の並びはわかる。



ズームの性能を確かめるために、オリオン座だけを撮ってみた。「見た目」のオリオン座に非常に近い。ベテルギウスとリゲルの色がちがうのがよくわかる。



三ツ星の下の「オリオン大星雲」付近にズームして見た。驚いたことに、星雲の像まで写っている。



更に、光学ズーム一杯にして撮影してみた。解像度こそ悪いが、オリオン大星雲の色と形が写っていた。ポケットに入るような普通のコンデジで、星雲が写せるとは、驚異と言えるだろう。